

○  
2022～2026

JCI FUKUYAMA

○  
未来ビジョン  
○



○  
○  
○  
**JCI** Fukuyama™  
○

# 誰もが挑戦し続ける ことの出来る福山を ともにつくろう



目次

2022-2026 JCI FUKUYAMA 未来ビジョンとは ビジョン策定に至る動機と想い	2 3
VisionStatement	4
青年会議所とは	5
福山青年会議所の原理原則	6
現状分析	7
StrategicMap とは	10
StrategicMap	11
私たちを目指す未来の福山 社会	12
福山                  ×社会	13
備後／瀬戸内      ×社会	14
日本                ×社会	15
産業	
福山                ×産業	16
備後／瀬戸内      ×産業	17
日本                ×産業	18
環境	
福山                ×環境	19
備後／瀬戸内      ×環境	20
日本                ×環境	21
人財	
福山                ×人財	22
備後／瀬戸内      ×人財	23
日本                ×人財	24
組織	
福山                ×組織	25
備後／瀬戸内      ×組織	26
日本                ×組織	27
5 年後の福山	28
検証について	29

## 2022-2026 JCI FUKUYAMA 未来ビジョンとは

福山青年会議所 (JCI 福山) はこれまで中長期的な運動指針として、2001 年に「JayCee の本懐」、2011 年に「万里一空」を策定いたしました。これらは JCI 福山の中で運用され、組織の想いを一つにして運動を最大化するために活用されてまいりました。

今回策定したまちのビジョンは、JCI 福山が今後 5 年で実現するまちの姿を示しています。JCI 福山が示すまちづくりの方向性をまち全体で共有、共感し、あるべき姿の実現に向け協働していただくためのツールです。

ビジョンの策定に向け多くのまちの声を聞き、ともに未来のまちのあるべき姿を考えました。青年会議所は綱領に「明るい豊かな社会を実現する」と定めています。これは永劫不变な理念とされており、「明るい豊かな社会」のあるべき姿とはその時々の社会情勢や時代の流れにより変化していくものもあります。

2022-2026 JCI FUKUYAMA 未来ビジョンは時代の変化に柔軟に対応し、反映することの出来るビジョンです。「明るい豊かな社会」の実現のため、ともに歩んでまいりましょう。

## ビジョン策定に至る 動機と想い

JCI 福山はこれまで率先してまちづくりを行ってきました。

青年会議所は単年度制であり、その時々の地域課題に対して事業を変更しながらまちづくりを行うという大きな利点があります。しかし事業単発での実績を積みあげることが難しく、事業それぞれの良し悪しで社会に与えるインパクトが左右されてしまいます。その結果持続的なインパクトを社会に与えることが出来なくなってしまいます。社会や地域を変えるべきポイントが明確になつていれば、そこを集中して攻略することが可能です。

毎年行う事業が変わっていっても解決すべきポイントが同じならばより効果的に地域課題を解決出来、持続的なインパクトを社会に与えることに繋がります。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり社会情勢が不安定になっている今、JCI 福山は未来を見据え、明るい未来をまちへ示す必要があります。10 年後が不透明な社会であるため 5 年という中期のビジョンを示し、訪れる時代の変化をただ待つだけでなく、「これからどのような変化が起こり、我々はどのような未来を創っていくのか」を考え自ら行動に移さなければなりません。

JCI 福山が示す未来は JCI 福山だけでも時間をかけば実現は出来るかもしれません。ですが持続可能な地域福山を創出するためにも先行きが不透明な今の時代だからこそ多くの方々とともに考え、ともに立ち上がり挑戦をしていきます。今だからこそ多くの共感を得て、共有していただき、ともにまちのために協働し、誰もが挑戦し続けることの出来る福山を実現させていきましょう。

## VisionStatement

福山には多くの地域課題が有り、解決出来ずにはいます。

これまで JCI 福山はまちをより良く出来ると信じ、率先して多くの事業を考え行動し、課題の解決をしてきました。しかし福山にはまだ多くの地域課題が有ります。

JCI 福山が行ってきた事業により、まちの課題を自分事と捉え自ら行動する市民が増えたのでしょうか。誰かを取り残して来てはいるのでしょうか。誰もが地域課題を自分事とし解決に向け挑戦し続けること、各々の抱く夢や目標達成に向け挑戦し続けることの出来るまちとなっているのでしょうか。

これから JCI 福山が行う運動は、まちを確実により良いものとし、持続可能な地域福山を実現させるものでなくてはなりません。

持続可能な地域福山とは、誰も取り残すことなく誰もが挑戦し続け、地域課題が明らかになり解決されるサイクルを官民連携して回すまちの姿です。

これまでの JCI 福山だけの考え方だけでは実現にはとてもない時間を要します。しかし福山には目の前にある地域課題の解決に向け、ともに考え、ともに学び、ともに行動が出来る約 47 万人ものパートナーがあります。

未来の福山を、誰もが次世代に残していきたいと思える福山をともに創り上げて行きましょう。

福山にしか出来ないこと。福山だからこそ出来るまちづくりをともに行いましょう。

持続可能な地域福山実現のため、誰もが挑戦し続けることの出来る福山へ変えていきましょう。

## 青年会議所とは

青年会議所 (JC) は “明るい豊かな社会” の実現を理想とし、次代の担い手たる責任感をもった 20 歳から 40 歳までの指導者たらんとする青年の団体です。

青年は人種、国籍、性別、職業、宗教の別なく、自由な個人の意志によりその居住する各都市の青年会議所に入会出来ます。

日本青年会議所の事業目標は、“社会と人間の開発” です。その具体的事業としてわれわれは市民社会の一員として、市民の共感を求める社会開発計画による日常活動を開拓し、「自由」を基盤とした民主的集団指導能力の開発を推し進めています。

さらに日本の独立と民主主義を守り、自由経済体制の確立による豊かな社会を創り出すため、市民運動の先頭に立って進む団体、それが青年会議所です。

## 福山青年会議所の原理原則

青年会議所の事業目標である“社会と人間の開発”的ため、福山の地域課題を洗出し、その地域課題を解決することで、どういう状態になりたいのかという目的を設定して、様々な手法を凝らした事業を行い、運動(movement)を巻き起こす。

事業を実施した後には、目的を達成出来たか、最適な手法であったかの検証を行い、また新たな地域課題に対して持続的に取り組む。

このサイクルを繰り返し実施することによって“明るい豊かな社会”の実現を目指す。



## 現状分析

現状分析を行うにあたり、SWOT分析を行い、福山の強み・弱み、社会の機会・脅威をまとめ、地域課題がどこにあるのかを明確にしました。その中で、私たちが出来る事を様々な角度から考え、まとめました。



SWOT分析とは、競合や法律、市場トレンドといった自社を取り巻く外部環境と、自社の資産やブランド力、さらには価格や品質といった内部環境をプラス面・マイナス面にわけて分析することで、戦略策定やマーケティングの意思決定、経営資源の最適化などをおこなうための、フレームワークのひとつです。

### 脅威

東京一極集中によって地域間格差の拡大、若者が都市部に進出し、超高齢化の進展。今後、地域格差は更に進むことが考えられる。また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響、自然災害の脅威により不安を感じて生活する市民が増加している。

### 機会

不安が増す一方で、解決に向けて動き出す層が台頭している。SDGsの認知度も上がりつつあることから、地域課題を自らとして捉えるという意識は浸透しつつある。

### 私たちが出来ること

JCI福山が地域の課題解決に取り組むこと。潜在している課題の解決はもちろんのこと顕在化している課題に対しても、先進的な知識とアイディアをベースにSDGsなどの考え方を取り入れながら、運動展開を行う。

産業	<b>脅威</b>
	少子高齢化による労働力の減少、後継者不足が進展し経済が停滞していくなか、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により更なる影響が懸念される。後継者不足は、技術の継承が出来なくなることであり福山ブランドの維持が出来なくなる。
	<b>機会</b>
	少子高齢化による労働力の減少、後継者不足を補うテクノロジーの開発。パンデミックによる新たな価値による福山ブランドの創造。
	<b>私たちが出来ること</b>
	世界に広がるネットワークを駆使し得た情報を地域に発信し地方から運動を展開する。DXなどの先進的な技術や情報をいち早く獲得し福山を先導する。

人材	<b>脅威</b>
	住み暮らすまちへの関心不足、少子高齢化による労働力の低下、グローバル人財の不足による発展機会の損失、多様性の理解不足による訪日外国人の環境整備不足。人財への投資を後回しにすることで将来への発展が望めない現状。
	<b>機会</b>
	大幅なデジタル化推進により、時間、場所を問わず発信や運動を起こすことが可能となった。埋もれていた人財、アイディアが発掘可能になり、年齢を問わず、地域を問わず未来のリーダーを創ることが出来る。
	<b>私たちが出来ること</b>
	運動を続け事業を構築し続けることでヒトづくりを行う。そこに多様性を認め、時代にあった変革をしていくことでまちのリーダーを生み出し、地域にインパクトを与え続けていく。

環境	<b>脅威</b>
	経済発展により、世界的な資源の枯渇と水やエネルギーの不足が懸念されている。昨今の気候変動はこれまでにない災害が発生する可能性が高くなっている、危険が身近に迫っている。経済活動の犠牲により、陸や海の生物多様性が脅かされている。
	<b>機会</b>
	地域資源を活かして自律的な地域発展を促す「環境未来都市」構想を発展させる方創生の要として、SDGsが推進されている。また、持続可能な調達・操業・投資の実行による組織や地域の差別化、自然資本の活用、環境への負担低減や復元に関するサービスや商品が生まれてきている。
	<b>私たちが出来ること</b>
	持続可能な社会を築くためには「環境」がすべての土台にあり、環境に関する人々の意識を高め、消費行動を変える。経済活動が環境に良い影響を与える好循環を作り出すために、温室効果ガスの排出や、自然災害に対する弱者のレジリエンスを確保する。SDGsを更に普及させることで市民の意識レベルを向上させる。

組織	<b>脅威</b>
	ライフスタイルの多様化や、人口の減少、流出からJCへの入会者対象者そのものが減少している。JCしかなかった時代からJCもある時代の中、改めて組織の価値を考え直す、また少人数でも持続発展が可能な組織づくりも必要である。
	<b>機会</b>
	もともと多様な人財からなる組織であるJCは多様性を受け入れやすい組織。リモート環境の強化や時代の変革期にある今こそが組織をプラッシュアップし、ユニークな組織として外部にアピールし、持続発展を可能とする。
	<b>私たちが出来ること</b>
	運動、事業を通じて産官学の手の届き辛い民間との協働、パートナーシップの橋渡しを行う。社会へインパクトを与え続けるために、社会のニーズに合わせ組織を変革し、社会へ発信をし続けることで人員を確保し持続する組織を構築する。

## Strategic Map

### Strategic Map とは

青年会議所の事業目標である“社会と人間の開発”的なため、福山の地域課題を洗出し、その地域課題を解決することで、どういう状態になりたいのかという目的を設定して、様々な手法を凝らした事業を行い、運動(movement)を巻き起こす。

事業を実施した後には、目的を達成出来たか、最適な手法であったかの検証を行い、また新たな地域課題に対して持続的に取り組む。

このサイクルを繰り返し実施することによって“明るい豊かな社会”の実現を目指す。

#### 縦軸

福山・備後／瀬戸内・日本

JCI福山の理念と目標に則り、それぞれのフィールドで分割



#### 横軸

社会・産業・環境・人財・組織

これから約5年間に取り組んでいくべき課題として分割

	福山	備後／瀬戸内	日本
社会	多様性を認め、個性を發揮 防災・減災に向けた活動の促進 時代に即したリテラシーの向上	備後圏域中心都市の存在感の發揮 社会インフラの共有と活用 グローバル進出の促進	SDGsの推進 グローバル化に対応した教育 権利権益を守る為の国土強靭化
	伝統と文化を承継し、発展	SETOUCHIブランドの創造	安心して出産育児教育ができる制度設計
	公正かつ公平な行政の実現	共同条例の制定	リスク分散のできる社会の構築
	行政と連携した産業基盤の構築 教育費無償化と子育て支援の強化	高齢者福祉産業の構築 官民が連携できる制度の策定	高齢者福祉産業の構築 官民が連携できる制度の策定
産業	地域とのHUB拠点 災害に強いまちの仕組みづくり	地産地消の推進 地域資源の活用	グローバル進出の促進 医療連携による医療体制の強化
	新たな価値を創出し魅力を発信	医療連携による医療体制の強化	日本全体の経済発展への取り組みの理解
	何度でも訪れたくなる環境の整備 自然災害への意識向上	地域の魅力を発信する環境の整備 災害危険地域の明確化	SDGsの推進 環境問題の周知
	多様化社会の実現 魅力・伝統・芸術の承継	歴史・文化・伝統からの新たな価値の創造 SDGsの推進	環境問題への取り組みの発信 環境教育の確立
環境	幅広い世代が住みやすい環境の構築	自然保全による快適な地球環境の創造	日本全体の環境への取り組みの理解
	発信力のある人財の育成 SDGsを理解した環境リーダーの育成	地域の特色を活かすことできる人財育成 地域間の問題提言が行える人財の育成	地域間の魅力を発信できるデジタル人財の育成 言語表現整備が行えるグローバル人財の育成
	デジタル人財の育成 個人ごとの才能を伸ばす 青少年育成	地域同士を繋げるパートナーシップの構築 地域の次世代を担える人財の育成	地域の魅力を発信できる環境の整備 SDGsを理解し、実践できる人財の育成
	グローバル化・多様化に適応する人財の育成	将来のリーダーを生み出す 教育の実施	積極的に出向を行える人財の育成
人財	豊かな自然と魅力を発信する取り組みの実施 デジタル化・グローバル化の浸透	地域間のコミュニティの創出 地域の魅力を発信する共同媒体の創造	全国的に魅力を発信できる事業の実施 自然を生かした施設構築の提言
	災害に強いまちづくりの強化 会員の多様化の促進	地域間の官民の連携推進 青少年へ地域の魅力を理解させる取り組みの実施	影響力を持った人財の獲得 パートナーシップの推進
	主体的仲介者としてSDGsを推進	地域を超えたビジョン策定の機会の創出	JCI日本への継続的な出向者の輩出

## 私たちの目指す未来の福山

### 誰もが挑戦し続けることの出来る福山

	福山	備後／瀬戸内	日本
社会	持続可能なまち 福山	備後／瀬戸内の ハブ拠点福山	明るい豊かな まちを福山から 日本へ
産業	産業拠点 としての福山	都市間連携が 可能な産業	福山独自の 産業を日本へ
環境	住みやすい 暮らしやすい 福山	魅力的な環境	環境問題から 未来を創造する
人財	まちに寄りそう 多様な人財	地域を超えた 課題解決が 出来る人財	全国に誇ること が出来る人財
組織	まちとともに 歩む組織	柔軟な組織	全国的な協力が 出来る組織

### 【1. 持続可能なまち福山】

#### 福山×社会

1. 様々な人々が多様な個性を認め合い、発揮することの出来る社会を築き上げる。
2. 市民と行政が協力し合い、防災・減災に向けた活動を進め、災害発生時に助け合うことの出来る強靭な地域コミュニティを築き上げる。
3. 全ての市民が時代に即した活動が出来る能力を身につけ、福山からイノベーションを起こす土壌を築く。
4. 地域に根差した伝統と文化についての理解を深め、次世代への承継・発展を図る。
5. 市民一人ひとりが市政の担い手としての自覚をもち、透明性が高く偏りのない行政の実現を目指す。



## 【2. 備後／瀬戸内のハブ拠点福山】

備後／瀬戸内×社会

1.	備後圏域における市民・行政の連携を深め、福山市の独自の価値を発揮する。
2.	備後圏域・瀬戸内圏域での社会インフラの共有と有効活用。
3.	グローバル進出をする為の橋渡しが出来る制度創りをする。
4.	「SETOUCHI」というキーワードによるインパウンドを狙ったプランディングを創り出す。
5.	備後圏域・瀬戸内圏域を対象とした共通の条例を制定し、近隣地域の連携を図る。

## 【3. 明るい豊かなまちを福山から日本へ】

日本×社会

1.	SDGs を推進し明るい豊かな社会を築き上げる。
2.	グローバル化に対応した教育を行い、デジタル・他言語・国同士の相互理解を図る。
3.	権利権益を守る為国土強靭化を図り、リスクマネジメントから国民の命と財産を守る。
4.	安心して育児が出来る環境を創るために制度の制定。
5.	デジタル化により東京一極集中を改善し、有事の際にリスク分散が出来る社会を構築する



#### 【4. 産業拠点としての福山】

##### 福山×産業

1.	企業が持続的な成長と発展をする為に、環境と産業基盤の構築を行政と連携して行う。
2.	福山市の教育費無償化、子育て支援の強化をすることで福山市への興味喚起、移住者増をはかり産業基盤の底上げをする。
3.	地域都市のハブ拠点として、駅前、商業施設への滞在時間を伸ばすよう、計画的に発展させる。
4.	企業が持続的な経営と成長をする為に災害に強いまちへの仕組みづくりをする。
5.	福山の新たな価値を創出し地域の魅力を発信出来る事業を行う。



#### 【5. 都市間連携が可能な産業】

##### 備後／瀬戸内×産業

1.	企業が連携しあい、高齢者福祉や、伴う産業基盤を構築し発展させる。
2.	官民が協力して連携・交流出来る制度を創る。
3.	備後圏域・瀬戸内圏域での連携による地産地消推進やPRを行い、地域産業を活性化させる。
4.	地域同士が連携して、地域資源の活かし方やイベントを発信する。
5.	備後／瀬戸内の市町村で医療連携し円滑体制を築き、医療産業を発展させる。



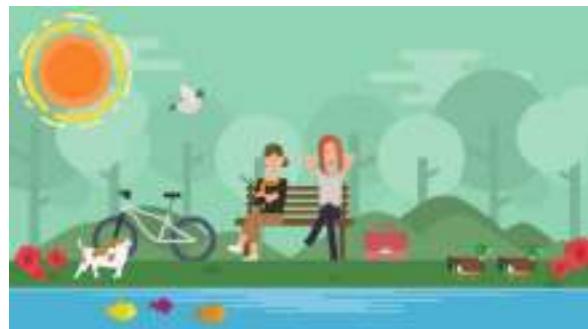
## 【6. 福山独自の産業を日本へ】 日本×産業

1.	近隣都市の企業が連携しあい、高齢者福祉産業を構築し発展させる。
2.	官民が協力して税制を利用した近隣都市の連携・交流出来る制度を創る。
3.	近隣都市が共同して、グローバル進出をする為の橋渡しが出来る制度創りをする。
4.	近隣都市間での医療連携し円滑な体制を築き、医療産業を発展させる。
5.	全国各地の福山青年会議所から出向者が集まる JCI 日本へ継続的に出向者を輩出し、経済発展への情報を展開する。



## 【7. 住みやすい暮らしやすい福山】 福山×環境

1.	観光都市福山として何度も訪れたくなるように、環境を整備する。
2.	自然災害に対する意識と知識を高め、行動出来る環境を創造する。
3.	多様化社会を実現するために、デジタルへの適応、言語による障壁をなくすようにインフラを整備し、誰ひとり取り残さない環境を創出する。
4.	地元民から地元の魅力となる伝統・芸術を発信し後世に伝え残すことが出来る環境を創る。
5.	福山に長く住みたい、戻ってきたいと思えるように幅広い世代が住みやすい環境を構築する。



## 【8. 魅力的な環境】 備後／瀬戸内×環境

1.	備後・瀬戸内圏域内の魅力を 伝えることが出来る環境を整備し、 持続的に発展させる。
2.	災害危険地域を明確化し、 誰もが災害に対応出来る環境にする。
3.	地域の歴史、文化、伝統を受け継ぎ、 新たな価値観を創造する。
4.	備後・瀬戸内圏域内に住み暮らす人の 環境意識を向上させるために、SDGs を推進する。
5.	豊かな自然を保全し、 より快適な地球環境を創造する。



## 【9. 環境問題から未来を創造する】 日本×環境

1.	環境問題の解決のために SDGs を推進する。
2.	環境問題を広く周知し解決するために、 政府、メディアとの連携を密に図る。
3.	環境問題への取り組み提言から 新たなビジネスモデルを確立し、 持続発展が可能な日本を創る。
4.	環境問題への当事者意識を醸成するために、 環境教育を確立する。
5.	日本の環境への取り組みを理解する機会を創出し、 環境への意識を向上させる。



## 【10. まちに寄りそう多様な人財】

福山×人財

## 【11. 地域を超えた課題解決が出来る人財】

備後／瀬戸内×人財

1.	福山の魅力を広めることの出来る 発信力のある人財を育成する。
2.	持続可能な社会の実現に向け次世代を担う 環境リーダー、SDGs を理解し実践出来る 人財育成をする。
3.	ニューノーマルな時代をけん引出来る デジタル人財の育成を行う。
4.	子どもたちそれぞれに合った才能を発掘し、 プロフェッショナルな人財を育成する。
5.	誰もが住み暮らしやすいまちにするため、 グローバル社会に適応出来、 多様性を受け入れることの出来る人財を育成する。



1.	それぞれの地域の特色を活かすことの出来る 人財育成を行う。
2.	備後・瀬戸内地域間で起こりうる問題を把握し、 行政へ提示出来る人財育成を行う。
3.	有事の際や事業構築が必要な時に 福山青年会議所間を繋げることの出来る パートナーシップを構築する。
4.	備後・瀬戸内圏内の次世代を担える 人財育成を行う。
5.	備後圏域の子どもたちが 将来的なリーダーとなれるような教育を行う。



## 【12. 全国に誇ることが出来る人財】 日本×人財

1.	地域間の魅力を掛け合わせて効率よくデジタル発信を行うことの出来る人財育成を行う。
2.	サービスや言語表現整備を進められるグローバルな人財を育成する。
3.	全国に JCI 福山を PR 出来る人財の育成と発信出来る環境を整備する。
4.	SDGs を理解し、実践出来る人財を育成する。
5.	出向を学び理解することで JCI 日本へ出向する人財を育てる。



## 【13. まちとともに歩む組織】 福山×組織

1.	福山の豊かな自然や魅力を発信し、新たな魅力を創造し、福山に興味をもつ人を増やす取り組みを行う。
2.	変化に強いまちを実現するため、デジタル化・グローバル化に率先して対応し、発信し、浸透させる。
3.	行政と連携し災害に強いまちであるための取り組みを強化する。
4.	変化に対応出来る強い組織であり続けるために、性別、国籍、所属に寄らない会員を増やし、多様化を促進する。
5.	持続可能な社会の実現に向け、産官学の垣根を越えた主体的仲介者となって SDGs を通じたまちづくりを推進する。



## 【14. 柔軟な組織】 備後／瀬戸内×組織

1.	備後・瀬戸内圏域内の福山青年会議所が協力し合うためのコミュニティを創出し、備後・瀬戸内の魅力をともに発信する。
2.	各地域の福山青年会議所が共同して地域の魅力を発信出来る媒体を作成し運用する。
3.	地域同士が課題解決に向けて協働出来るように、JCが仲介者となり地域と地域の民間や行政をつなぐ。
4.	備後・瀬戸内圏域内に住み暮らす子供たちが地域の魅力を再認識出来るような事業を青年会議所同士が連携して行う。
5.	福山青年会議所だけではなく備後／瀬戸内という大きな枠組みでの中長期ビジョンをともに考える機会を創出する。

## 【15. 全国的な協力が出来る組織】 日本×組織

1.	地域の魅力を発信出来るような事業を行い、全国的に認知させる。
2.	瀬戸内という自然を活かした施設を作り出すための提言を国・行政に行う。
3.	全国、世界へインパクトを起こせる人財を積極的に組織に取り入れる。
4.	全国的な影響力を持つ団体とパートナーシップを結び、協働する。
5.	全国各地の青年会議所から出向者が集まるJCI日本へ継続的に出向者を輩出し、まちの認知度を向上させる。



## 5年後の福山

5年後はどのような福山になっているのでしょうか。

福山について考え、挑戦をする市民が溢れている。

福山には、仕事や学びの場があり  
しっかりとした生活が送れる。

福山が好きで、福山で起業をしようとする若者が溢れている。

子ども達が先導し地域の高齢者とコミュニケーションをとり  
失われつつあった地域の繋がりが深まっている。

今までなかなかまちへ出られていなかった高齢者、障がい者を  
サポート出来るテクノロジーが発達しまちを楽しんでいる。

人口減少、労働力の不足を新たなテクノロジーで補い、  
経済が円滑に回っている。

パンデミックが起きて困難な経済状況になって  
も新たな価値観が生まれる機会と前向きに捉え  
新たなビジネスモデルが生まれている。

経済の成長や、インフラ整備の悪影響を受けていた環境は  
改善をするとともに持続可能なものとなり、  
豊かな自然の姿を見せ続けている。

その自然を守るビジネスが生まれている。

市民が多様性についても理解をし、

多くの異文化交流が積極的に行われている。

福山がハブとなり備後や瀬戸内を結び、  
地域都市の中核となっている。

福山の地域課題を知るだけでなく、  
実際に解決するためまちとともに  
行動をするリーダーで溢れている。

「挑戦をし続けることが出来る福山」は  
福山市民だけでなく備後や瀬戸内に波紋を広げ  
多くの人々を笑顔に、心を明るく豊かにし続けていきます。

ともに挑戦をしましょう。

あなたの考える未来にまっすぐに。

## 検証について

### JCI FUKUYAMA Strategic Plan



※StrategicPlanを用いた事業の検証に

JCIアクションフレームワークを使用します。

JCIアクションフレームワークとは課題と問題解決ツール  
を観るレンズに匹敵するものです。

問題、ニーズや機会を分析して特定し、主な課題に取り組  
むための計画を立案し、その計画を完全に実行した後に成  
果を見直し、そこでの学びを次の機会に活かすことで、  
今、事業がどんな段階で何をしなければいけないのか、  
何が必要なのかをイメージ出来るようにし検証に役立てま  
す。

